２０１９年5月　第４９号（診療科紹介号）

市立室蘭総合病院　広報誌

くじらんネット

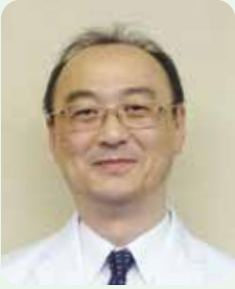
病 院 の 理 念

おもいやりの心がかよう病院

病院の基本方針

・信頼される医療を持続的に提供します。
・自治体病院としての役割と責任を担います。
・経営の健全化と効率化に努めます。

令和元年度を迎えるにあたり



室蘭市病院事業管理者
市立室蘭総合病院　院長　金戸（かねと）　宏行（ひろゆき）

平成28年4月1日に、市立室蘭総合病院の院長を拝命しこの4月より４年目に突入します。 昨年度より室蘭市病院事業管理者も兼務することになりましたが、一般診療・検査業務もいまだ継続していますので、現場に近い視点から病院運営並びに経営を日々目指しております。平成最後の今春も新進気鋭の医師、看護師をはじめ多くの医療スタッフが新しく加わりましたのでよろしくお願い致します。

昨年度は当院の理念である**「おもいやりの心がかよう病院」**を再度見つめ直し、職員一丸となり**「住民(市民)に愛される病院」、「住民(市民)目線の病院」**を目指して取り組んでまいりました。今年度も引き続き継続目標として取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。現在国は少子高齢化が進む時代に、安心して医療・介護が受けられるように地域包括ケアシステムの構築を進めています。高齢者のみの世帯、高齢独居者が増えつつある当地域において、かかりつけ医を含めた在宅医療と介護の関係は徐々に構築されつつありますが、いまだ総合病院と介護領域の関係構築は十分にできているとは言えない状況と考えております。今年度は医療連携・患者支援推進センターを中心にこの領域にも積極的に取り組んでまいりたいと考えています。西胆振地域の医療にとって当院が重要な役割を担っている「脳外科・精神科のある総合病院」、「がん診療連携指定病院」「高エネルギー外傷患者の受け入れ先」、「災害拠点病院」として、引き続き急性期医療を提供すると共に、入院医療と在宅医療、そして介護領域への橋渡しも、皆さんが安心して任せられるような病院を目指してまいりたいと考えております。また本年度は病院として初の試みになる「市立病院祭り」も企画しているところです。皆さんに楽しんでいただけるようなイベントにしたいと考えております。日程など決まりましたらお知らせいたしますので是非ご参加ください。

地方公営企業である当院は地域住民の福祉の増進を目的とする事業を行うことがその主目的でありますが、企業である以上、経済合理性に即して効率的に運営し独立採算制をめざさなければなりません。皆様から集められた貴重な血税の一部を利用していることを肝に銘じて、職員一同引き続き経営の健全化と効率化にも取り組んでまいりたいと思います。

診療科の紹介

病院事業管理者・院長　金戸（かねと）　宏行（ひろゆき）
部　長　清水（しみず）　晴夫（はるお）
部長（血液科）［内科部長］　佐藤（さとう）　修司（しゅうじ）
科　長　小野寺（おのでら）　馨（けい）

医　長　山川（やまかわ）　司（つかさ）
医　員　上野（うえの）あかり

消化器内科

消化管疾患、肝・胆・膵疾患、さらに血液疾患などを担当しています。日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本消化管学会の認定施設に指定され、それぞれの専門医を中心に診療にあたっています。充実した内視鏡機器を備え、内視鏡技師を中心とした内視鏡室専属スタッフのサポートにより、最新の内視鏡検査・治療を行っています。肝・胆・膵疾患の入院治療はチーム制を導入し複数の医療従事者による診療を行っています。また外科的な治療が必要と判断される場合は、術前検査を行って外科とのカンファレンスを行い、手術を行った症例については臨床検査科（病理医）を交えて検討するなどの連携を図っています。血液悪性腫瘍に対しては無菌治療室を利用し、自家末梢血管細胞移植治療にも取り組んでいます。

主任医長　渡部（わたなべ）　宗一郎（そういちろう）
医　長　柳（やなぎ）　昌弘（まさひろ）

呼吸器内科

肺炎、間質性肺炎（肺線維症）、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、じん肺、呼吸不全、肺腫瘍、肺癌、肺結核などの病気の診断・治療を担当しています。健康診断などで胸部X線写真に異常を発見された方の精査も行なっています。なるべく短期間で苦痛の少ない検査によって治療方針を決定するよう心掛けております。検査や治療は可能な限り外来で進めてまいります。

また最新の超音波気管支内視鏡や局所麻酔下に行なう胸腔鏡などを導入し、ハイレベルな診療を行えるよう、スタッフ一同、日々努力しております。

糖尿病内科

糖尿病専門医・指導医として、以下のことに留意し診療を行っています。

○食事・運動療法を基本とする。
○個々の患者さんの特徴・病状に合った適切な経口薬・注射薬・インスリンを処方する。
○厳格な血糖コントロールを目指すと共に低血糖を可能なかぎり回避する。
○糖尿病の合併症である細小血管症（網膜症・腎症・神経症）や大血管症（心筋梗塞・脳卒中・末梢動脈疾患）の発症・進行の予防に努める。
○血管症の他、糖尿病で頻度の多い感染症・癌・骨折の診断・治療の為に他科専門医との連携に努める。
○患者さんに糖尿病という病気への理解・関心を深めてもらう（糖尿病教室開催中）。

部　長　宮崎（みやざき）　義則（よしのり）

小児科

伊達赤十字病院の医師による出張診療です。
毎月第２・第４金曜日午後の診療となります。

部　長
［消化器内科部長(血液科)］
佐藤　修司

科　長
［外科兼任］
宇野　智子

医　長
谷　元博

内　科

当科では、感冒(いわゆる「かぜ」)、発熱、健診で異常を指摘された方、何科を受診すればよいかわからない方を対象とします。緊急性のある方には予約の有無に関係なく状況に応じて対応させていただきますので、どうぞお気軽にご相談ください。必要な診療科へ紹介いたします。

また、当科では人間ドックも行っております。診察や検査結果の判定は消化器内科、呼吸器内科など各科の担当医が行います。全科の結果をまとめた後にご来院いただいて当科医師から結果報告を行わせていただきます。

副院長
髙橋　典之

呼吸器外科

主たる診療内容は胸部に関する外科治療一般です。全世界的に増加傾向にある肺癌、若年者から高齢者に見られる自然気胸、切除以外に確定診断が難しい縦隔腫瘍、肺結核や非結核性抗酸菌症 (NTM) など感染症の外科切除、気管・気管支腫瘍、および胸部外傷など診療内容は多彩です。

お気軽にご受診ください。

部長(医局長兼任)
佐々木賢一

副部長
齋藤　慶太

科　長
小川　宰司

科長［内科兼任］
宇野　智子

医　員
木村　明菜

外科・消化器外科

食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆管、胆嚢、膵臓、ヘルニア(脱腸)など消化器全般と、乳腺・甲状腺を担当し、年間約500例の手術を行っています。外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会、乳癌学会など多くの学会から認定を受けています。からだの負担の少ない術式として、腹腔鏡下手術を積極的に取り入れ、胃癌、大腸癌、胆石、ヘルニアを中心に、年間約200例の腹腔鏡下手術を行っており、腹腔鏡下胃切除256例、腹腔鏡下大腸切除538例の実績(2019年3月現在)があります。

乳癌手術では、できる限り乳房を温存し、キズを目立たない場所にするなど美容に配慮した術式も取り入れています。この5年間(2014-2018年)の乳房温存率は65%(初発乳癌157例中100例)です。トモシンセシス可能な最新鋭デジタルマンモグラフィー装置を2014年に道内で2番目に導入し、乳癌の早期発見に効果を上げています。検査技師から医師までオール女性スタッフが担当しますので、ぜひ当院で乳癌検診をお受けください。また、月に1回、札幌医大前教授と講師による乳腺専門医外来も開設していますので、ぜひご利用ください。

内痔核(イボ痔)治療には、「切らずに治す」ALTA療法(ジオン注射)を一早く取り入れ、358例の実績(2019年3月現在)があります。従来の手術と違い、術後の痛みがほとんどないため、一泊入院手術も可能です。ぜひ相談にいらしてください。

循環器内科

他病院からの出張医と当院の医師が交代で診療します。
新患の受付は月・水・木曜日のみです。

整形外科

副院長　石川　一郎（いしかわ いちろう）
医　長　塚本　有彦（つかもと ありひこ）
医　長　堀口　雄平（ほりぐち ゆうへい）
医　長　大山　智充（おおやま あきみつ）

診療援助医〔スポーツ整形外科専門医〕　中野　和彦（なかの かずひこ）
診療援助医〔スポーツ整形外科専門医〕　神谷　智昭（かみや ともあき）
診療援助医〔膝関節専門医(人工関節)〕　亀田　和利（かめだ かずとし）

専門領域：脊椎・肩関節・膝関節・およびスポーツ専門の診療に力を入れております。その他股関節・足関節・足部・肘関節・手の外科の診療を行っており、リウマチ・小児の整形外科治療も積極的に行っています。
外傷：高エネルギー外傷を含む外傷一般に力を入れており、ほとんどすべての外傷に対して受け入れ・手術を含めた治療を行っています。
”絶対断らない”を信念に頑張っています。
鏡視下手術：肩・肘・手・(股)・膝・足の各関節の手術・治療を行っています。
人工関節：肩（リバースショルダーを含む)、肘、手指、股、膝に対して精力的に行っております。
スポーツ専門外来：元コンサドーレ札幌チームドクターの中野先生による月１度の外来に加え、札幌医科大学附属病院の神谷先生が月に1度、診療に来てくれます。月に2回のスポーツ専門外来開催となり、より充実したものとなることが期待されます。

脳神経外科

部　長　大山　浩史（おおやま ひろし）
部長［脊椎･脊髄担当］　小浜　郁秀（こはま いくひで）

最近進歩が著しい脳卒中診療では、脳梗塞超急性期治療であるｔ－ＰＡ静注療法に２４時間体制で対応、経皮的血栓回収術にも随時対応しています。また、交通事故・不慮の事故などによる頭部外傷や脊髄損傷、さらには脊椎・脊髄疾患(頸椎症・頸椎椎間板ヘルニア・頸椎後縦靱帯骨化症・腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症、脊髄脊椎腫瘍など)の診断治療、その他の末梢神経の外科治療に積極的に取り組んでいます。ＭＲＩ(磁気共鳴断層装置)、ＣＴ(コンピューター断層撮影装置)、ＤＳＡ(血管Ｘ線撮影装置）など、最新の医療機器により脳、脊髄の診断を行い、特に脳卒中の予防に力を入れています。近年、治療可能な認知症といわれる特発性正常圧水頭症に対しても、積極的に鑑別診断、治療を行っています。「手足のしびれや痛み」はよく感じる症状ですが、その原因として、脳疾患、脊椎脊髄疾患や末梢神経疾患があります。すなわち、神経系全体にわたる原因が考えられます。このため脳神経外科では、神経系全体（脳から手足の先端まで）を診察、検査してその原因を診断、治療する目的で『脳神経外科－しびれ・痛み外来』を設けました。手足のしびれ、痛みでお悩みの方は、一度脳神経外科を受診されることをおすすめします。

産婦人科

嘱託医　荻野　元子（おぎの もとこ）
嘱託医　太田　雄子（おおた ゆうこ）

現在産婦人科では婦人科の外来診療のみを行っています。
子宮筋腫や卵巣のう腫などの経過観察、子宮がん検診、妊娠の判断、月経不順や更年期障害の治療、性感染症など、一般的な外来診療は従来通りに行っています。生理の異常、おりものの異常、不正出血、下腹部痛などの症状がなくても婦人科の病気がかくれていることがあります。子宮頸がんはがん検診を受けていただくことで早期発見・早期治療できる病気です。初期のがんであれば子宮を温存し妊娠出産することも可能です。２０歳以上の方は特に症状がなくても２年に１回は子宮がん検診を受診されることをお勧めします。また、トマト外来では生理トラブルや避妊の相談も承っています。
分娩を希望される妊婦さんや入院・手術が必要な患者さんについては日鋼記念病院や製鉄記念室蘭病院等と提携しておりますので、責任を持ってご紹介させていただきます。
診療日は水曜と木曜の午前中です。前日までに電話などでご予約ください。

嘱託医
大塚 千久美

神経内科

神経内科は、脳や脊髄・神経・筋肉に原因のある病気を診断し治療する内科です。神経内科の病気では、頭痛・めまい・物忘れ・しびれ・手足のふるえ・歩きにくい・話しにくい・動作が遅くなる、など様々な症状が出現します。これらの症状が、急に出現する病気（脳梗塞・脳出血）、徐々に進行する病気（認知症・パーキンソン病など）、良くなったり悪くなったりする病気（多発性硬化症・筋無力症など）、繰り返し起きる病気（片頭痛など）があります。当科では、いつから、どんな症状が、どのように変化してきたか、患者さんからじっくりお話しをお聞きして、神経学的診察と検査から病気を診断します。

少しでも気になる症状がありましたら、ぜひ受診してみてください。診療は、毎週木曜午後になります。

泌尿器科

腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿道炎、性感染症、腎・尿管・膀胱の結石、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌、副腎疾患、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁、男性不妊症、勃起不全、男性更年期障害などの疾患を主に扱っています。尿が出づらい、尿がもれる、尿をする時に痛みがある、尿が近いなどの症状がありましたら受診してください。

部　長
加藤　隆一

医　長
伊與木貴也

医　員
阿部　純也

眼　科

白内障や緑内障、網膜硝子体疾患をはじめとする眼科疾患全般について診療しています。また、札幌医科大学付属病院との迅速な診療連携を行っており眼科専門外来の医師による網膜硝子体、緑内障、ぶどう膜炎、神経眼科領域疾患の専門特殊外来も設けています。

主任医長
佐藤　圭悟

医　長
髙橋　明裕

嘱託医
伊藤　洋樹

放射線科

放射線科には、放射線治療と画像診断を担当する医師が1名ずついます。

2015年6月15日に新しい放射線治療装置「リニアック」が稼働し、高精度でより患者さんにやさしい放射線治療ができるようになりました。

画像診断では、CT、MRI、核医学検査などの読影を中心に、各科の画像コンサルトにも応じています。

部　長
志藤　光男

画像診断担当部長
吉田　悟

心臓血管外科

大動脈瘤、心臓弁膜症、冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤などの心臓血管系疾患を扱っています。札幌医科大学心臓血管外科の派遣医師が担当します。月２回、第１・第３火曜日（午前）外来のみの診療となります。外科治療が必要な場合、札幌医科大学附属病院など適切な医療機関を紹介いたします。

精神科

副部長 三上（みかみ） 敦大（のぶひろ）　科長 上川（かみかわ） 康友（こうすけ）　医長 草地（くさち） 麻実（まみ）　医長 森永（もりなが） 千尋（ちひろ）

精神科の外来は午前中３診体制で、統合失調症やうつ病、不安障害、認知症などの精神疾患全般に対する診療を行っています。一般病棟へ入院中に、精神的な不調を来した患者さんの診察も行います。精神科の入院はベッド数が開放６０、閉鎖６０（合計１２０）床で、特に総合病院の精神科として、精神科救急医療や身体合併症をもつ精神疾患患者さんの治療に積極的に取り組んでいます。また一方で、看護師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士などとチームを組んで、デイケア・作業療法・訪問看護などの精神科リハビリテーションを積極的に展開し、患者さんの社会復帰の促進にも力を入れています。

麻酔科（ペインクリニック）外来

嘱託医 今（こん） 久子（ひさこ）

検査をしても異常がないのに続く痛みや、治療して治ったはずなのに続くしびれや痛みなどを専門とする外来です。患者さんとの面談を大切に、その原因をさぐり、治療していきます。困っている方はご相談ください。

麻酔科

部長 下舘（しもだて） 勇樹（ゆうき）　集中治療室担当部長 西川（にしかわ） 幸喜（こうき）　医員 垣本（かきもと） 和人（かずと）

「安全な麻酔」をモットーに年間約1,700例の麻酔管理を手術室で行っています。さらに集中治療室（ICU）や救急診察室では重症患者さんの治療に参加しているほか、地域の消防と協力しながら24時間体制でドクターカーを運用しています。

臨床検査科・病理診断科

副院長 今（こん） 信一郎（しんいちろう）　科長 小西（こにし） 康宏（やすひろ）

血液・尿・喀痰・体腔液・組織などを検査する検体検査部門と、心電図・脳波・超音波検査などを行う生体検査部門があります。また、外来採血業務の一部も担当しています。

緊急検査、診療前検査、時間外緊急検査にも対応し、人間ドックや検診、そして生活習慣病の診断も支えます。また安全な手術を行うための重要な役割も担っています。

病気の原因をさぐる事、治療の方向を決める事、経過観察などの一助となり、質の高い検査結果を導き出す為、専門性の高い知識を得る様努力しています。

病理専門医が常勤し、病理組織診断や手術中迅速病理診断、更には細胞学的診断にも対応しています。当科には臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士が所属しており、院内感染対策や栄養サポートなどのチームの一員としても活動しています。

リハビリテーション科

副院長
石川（いしかわ）　一郎（いちろう）

リハビリテーション科は、理学療法士（PT）27名・作業療法士（OT）身体10名・精神3名・言語聴覚士（ST）6名と胆振地区としては充実したスタッフ数で、患者さんにリハビリテーションを提供しています。

PTは起きる・座る・歩くなどの基本動作訓練を主に行います。OTは食事動作・更衣動作・トイレ動作など、日常生活動作訓練を主に行います。STは摂食・嚥下訓練や失語症などの患者さんに対して訓練を行います。

私たちは医師・看護師・ソーシャルワーカーなどの他職種とも連携を図り、患者さんの状態に合わせてチームとして患者さんの社会復帰に向けたサポートを提供しています。

合い言葉は、笑顔と元気!

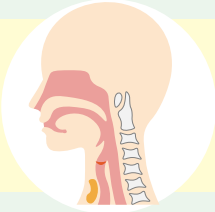
皮膚科

医　長
大久保（おおくぼ）絢香（あやか）

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎（かぶれ）、手湿疹、虫刺されなどの湿疹皮膚炎、尋常性座瘡（にきび）、足白癬（水虫）、帯状疱疹（ヘルペス）、伝染性膿痂疹（とびひ）、蜂窩織炎などの感染症、陥入爪（巻き爪）をはじめとする爪のトラブル、脱毛症、皮膚潰瘍・褥瘡、尋常性乾癬、重症原発性腋窩多汗症など、皮膚のトラブル全般にわたり診察いたします。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検、皮膚腫瘍切除など随時行っています。日本皮膚科学会の治療指針に沿った正当な治療を実践しています。診療は予約制となっております。ぜひ一度ご相談下さい。

耳鼻いんこう科

札幌医科大学附属病院の医師による出張診療です。
毎週月・水・木曜日の診療で予約のみとなります。



市立室蘭みなと診療所

診療所長
佐久間（さくま）司郎（しろう）

みなと診療所は平成２３年に室蘭市立の診療所として開院しました。

ＣＴ装置を備え総合的に内科診療を行っており、必要に応じて近隣の医療機関での検査、各診療科への診察を依頼し連携をはかっています。

一般健診、企業健診、船員健診、予防接種なども行っており、スタッフ一同地域の皆様の健康管理にも取り組んでいます。

主に進学・就職・旅行等に必要な一般健康診断と胃がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検診（クーポン券利用を含む）、肺がん検診、前立線がん検診、特定健康診査、国保短期人間ドックについては、市立室蘭総合病院に代わり受付、実施していますので、お気軽にお問い合わせください。

診療時間
月～金曜日　9：00～11：30
13：00～16：00
休診日　土曜日・日曜日・祝祭日

〒051-0022
室蘭市海岸町1-103
TEL 0143-23-3710

くじらん健康教室を開催します

当院では、市民の皆様を対象とした公開講座「くじらん健康教室」を開催しています。今年度は様々なテーマで合計６回の開催を予定しています。どうぞお気軽にお越しください。

5月のくじらん健康教室

テーマ／**まさかより　もしやで受診　脳卒中**
日　時／5月25日（土）　9時15分～
会　場／市立室蘭総合病院　2階講堂
参加費／無料
※当日は動きやすい服装でお越しください。

◇9時15分～10時00分
「転ばないための第一歩」
自分の筋力、バランス、歩く速さをチェックしてみましょう

◇10時10分～10時30分
「早く呼んで、早く治療　脳卒中を軽く済ませるために」
【講師】大山　浩史（脳卒中センター長）

◇10時35分～10時55分
「脳卒中予防　ここから始めましょう」
【講師】菅原　大輔（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）

今後のスケジュール

7月：緩和ケアについて
9月：乳がんについて
11月：感染症について
1月：リハビリテーションについて
3月：骨粗しょう症について

※開催日およびテーマは仮のものです。
詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

ツイッターを開設しました

市立室蘭総合病院の公式ツイッターを開設しました！
臨時の休診情報やイベントのお知らせをツイートしています。
パソコン、スマートフォン等からご覧ください。
https://twitter.com/MURORAN_G_HOSP

患者・家族の皆様の権利とお願い

医療は、患者の皆様と医療従事者との相互の信頼と協力とによって実践されます。　両者は、単なる契約関係やパターナリズム（親権主義）にあるのではなく，お互いの信頼感に支えられている「良いパートナーの関係」にあることが最も望ましいと考えております。　この考えのもとに市立室蘭総合病院は、患者の皆様の権利と意思とを尊重して、患者・家族の皆様も一緒に治療に参加できるような最善の医療の提供に努めております。

患者の皆様の権利と責務

皆様の権利

1．ご自身にとっての最善の医療を受けることができます。
2．ご自身の病気の診断・病状・治療方針などについて、分かりやすい言葉や方法での納得できる説明と的確な情報を受けることができます。
3．ご自身（あるいは家族）の意思で治療方法が選択し決定できますし、また他の病院の意見を求めることも、臨床研究中の新しい治療に関する情報の提供を受け、これに参加することもできます。
4．ご自身のプライバシーが守られ、診療明細書の提示や自身の診療記録の開示を求めることも、また知りたくない情報を拒否することもできます。

皆様の責務

5．ご自身の人格・人生観・価値観・宗教観・趣味趣向などは尊重されますが、診療・治療上の必要な指示や助言はお守りください。
6．通院・入院中は院内規則を守り、迷惑行為を慎んでください。
7．受けた医療に対しての医療費（自己負担分）は必ずお支払ください。（責務を守って頂けない場合は、当院での医療提供が継続できないこともあります。）

市立室蘭総合病院　広報委員会
〒051-8512
室蘭市山手町3丁目8番1号
事務局総務課
TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867
http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/